

だい
第1
ステップ

A

ことばの ルールを 学ぶ

おうちの方へ

文章を書くことの基本になるのが文法であり、表記法であり、語彙ごいです。もし、ここに弱点があると、この先、日本語の力をつけるのに重大な支障ができてしまいます。そこで、まずは低学年までにマスターしておかなくてはいけない正しい書きことばの復習をします。基礎を確認して、次のステップに進んでいくことにします。

最初に表記法や文法などの、ことばのルールを確認します。できるだけお子さんがおもしろいと思うような文にして、お子さんをあきさせないように工夫しています。お子さんの苦手な部分を確認させながら、どんどん問題をこなして、力をつけさせてください。

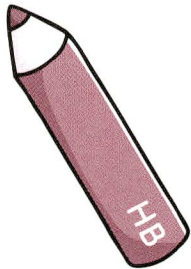
1

日本語の表記に慣れる問題

答えは、
別紙1ページ

次の文には、文字の書き方に、まちがいがあります。

まちがっている語の横よこに線を引き、（ ）の中に正しい語を書きましょう。



おうちの方への アドバイス



まずは正しい表記を
覚えてもらう

やさしい問題をたくさんこなして、正しい表記に慣れることを目指します。しかし、これらの中には、大人でも迷うものも含まれているはずです。ここでしっかりと復習させて、正しい書き方を定着させるように心がけてください。今、あいまいなままにしておくと、大人になってからも自信が持てないことになってしまいます。

1 六月わ雨がよくふる。

2 チョコレートお食べると、元気が出る。

3 あの二人は顔がそっくりだけれど、ふたごでわないらしい。

4 昨日^{きのう}、ぼくは弟と近くの公園え遊び^{あそ}に行きました。

5 毎日、お茶お飲む^のと、体によいらしい。

6 これは、たいへんめづらしい人形です。

7 どろぼうは東のほおへにげた。

8 六月は、雨の日がおうい。



9

妹はケーキを少しづつつ食べている。

10

この本は、とてもむづかしい。

11

わたしは、『なぞなぞの作り方』とゆう本を読んでいます。

12

図書室では、しづかにしましょう。

13

ぼくはきみの言うとうりにします。

14

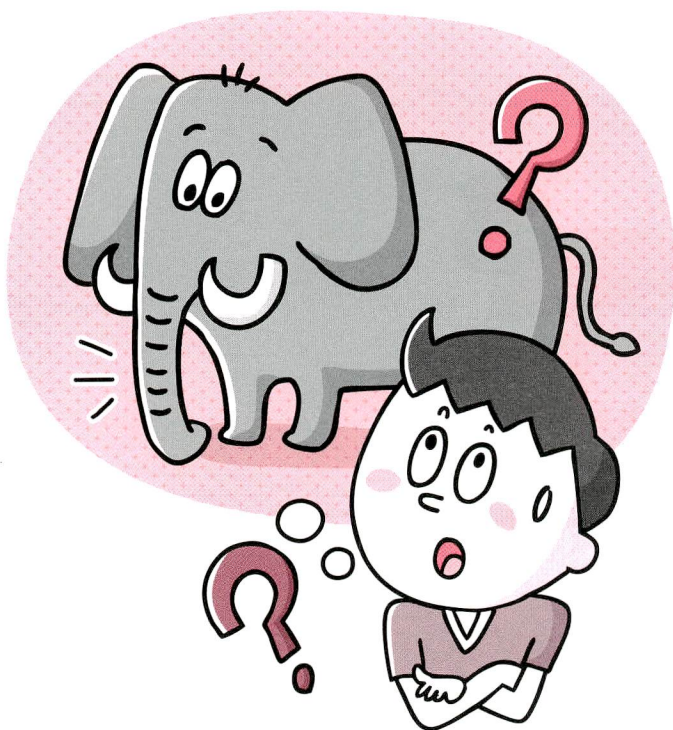
来年のクリスマスが今からまちどうしい。

15

あの底^{そこ}なしぬまには、近ずいてはいけません。

16

ゾウの鼻^{はな}は、どおして長いのだろう。



17 テストの点が悪^{わる}かったので、おこずかいをもらえなかった。

18 わたしのおじは、有名^{ゆうめい}なサッカー選手^{せんしゅ}と、ひたしいらしい。

19 もおすぐ楽しい夏休みです。

20 これから、たん生日のおゆわいです。

むずかしい問題^{もんだい}ではないよね。
声に出して読んでみよう。
「かなづかい」のきまりは、
17ページの「覚えよう!」を
読んでたしかめておこう。



2

助詞などの使い方に
慣れるための問題

答えは、
別添ページ

正しいことばの使い方つかをしているのは、どちらですか。正しいほうの記号きごうを、○で囲みかこましょう。

1

ア ぼくはピーマンもニンジンもきらいだ。
イ ぼくはピーマンもニンジンがきらいだ。

2

ア わたしは、算数はきらいですが、国語も好きすです。
イ わたしは、算数はきらいですが、国語は好きすです。

3

ア わたしの家には、にわとりが二羽います。
イ わたしの家は、にわとりが二羽います。

おうちの方への アドバイス



「れる・られる」の使い分けの
練習

「れる・られる」の誤用は話したことばでは、あまり気にされていませんが、書きことばでは、今でも厳密に用いられています。これを正しく使えないと、国語力を疑われることになります。したがって、ここでは「れる・られる」の用法にしばらく練習してみます。

「れる」と「られる」の使い分けは、「考え方のヒント」で示すとおりですが、いちいちそのようなことを考えていても、うまく使いこなせません。まずは、語感を養う必要があります。しっかりと、たくさんの方法を知って慣れさせてください。そうすることで、正しい語感が身につきます。

考え方⑨ポイント

「見える」などの「ら抜きことば」は、ことばの乱れとして取り上げられる典型です。正しい書きことばとして、「れる・られる」の用法を覚えておく必要があるでしょう。文法的に言うと、「れる」は、五段活用動詞およびサ行変格活用動詞の未然形につきま（この場合のサ行変格活用動詞の未然形は「さ」の形をとる）。「られる」は、上一段活用動詞、下一段活用動詞、カ行変格活用動詞および使役の助動詞「せる」「させる」の未然形につきま。

4

ア わたしが、いちごのショートケーキが大好きです。
イ わたしは、いちごのショートケーキが大好きです。

5

ア 犬が好き^すな人に、悪い人^{わる}はいません。
イ 犬が好き^すな人に、悪い人^{わる}がいません。

6

ア 母^{はは}がほしいのは、指輪^{ゆびわ}ではなく、ネックレスです。
イ 母^{はは}はほしいのが、指輪^{ゆびわ}ではなく、ネックレスです。

7

ア ぼくのお母^{はは}さんは、自転車^{じてんしゃ}に乗^のられません。
イ ぼくのお母^{はは}さんは、自転車^{じてんしゃ}に乗^のれません。

8

ア このジュースは、まずくて飲^のめません。
イ このジュースは、まずくて飲^のめれません。



お子さんにはもちろん、一般の大人にとっても、この説明はあまりに専門的でわかりにくいものです。

もっとわかりやすい見分け方があります。紛らわしいときには、命令の形にしてみてください。最後が「ろ」になる場合は、「られる」がつきます。「投げる」は「投げろ」です。それから、「投げられる」であって、「投げれる」とは言いません。「食べる」は「食べろ」だから、「食べられる」、「見る」は「見ろ」だから、「見られる」です。

この方法ですべてを見分けられるわけではありませんが、ほとんどの場合に有効ですから、確かめてみてください。

9

イ ア おなかがいっぱい、もう食べられません。
おなかがいっぱい、もう食べられません。

10

イ ア 今夜は、大好きなアニメが見られない。
今夜は、大好きなアニメが見れない。

11

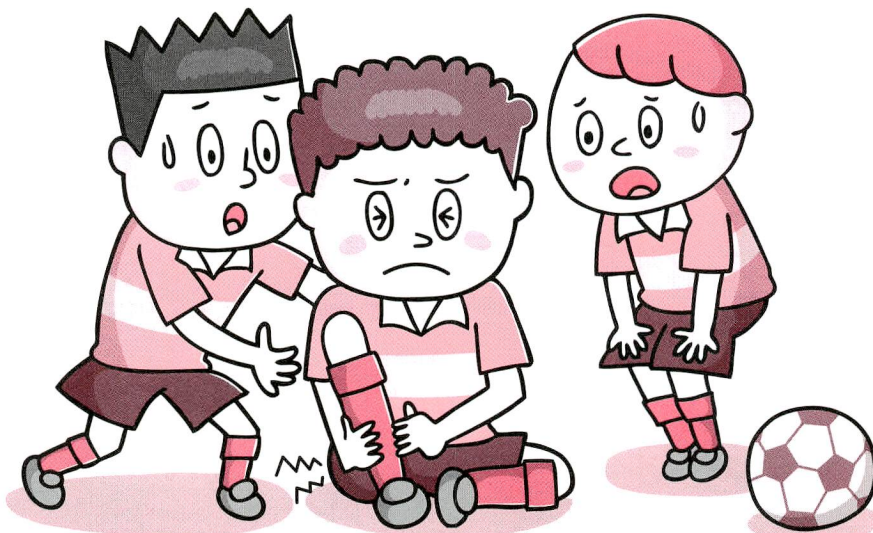
イ ア たくや君は足をねんざして、サッカーの試合に出れない。
たくや君は足をねんざして、サッカーの試合に出られない。

12

イ ア ゆみちゃんはかぜをひいて、来れなくなった。
ゆみちゃんはかぜをひいて、来れなくなった。

13

イ ア 昨夜は、よくねむれなかった。
昨夜は、よくねむれなかった。





覚えよう！

かなづかい

(わかりにくい日本語のかなづかい)

◎「わ・お・え」と「は・を・へ」

・「ワ」「オ」「エ」という音のもの
ふつう、「わ」「お」「え」と書く。
助詞の場合だけ、「は」「を」「へ」。

例→~~わ~~ぼくは ~~お~~犬を ~~え~~公園へ

◎「じ・ず」と「ぢ・づ」

「ジ・ズ」の音のものは、ふつう「じ・ず」と書くが、次の①②の場合は例外

①「つづ」「ちぢ」と同じ音が続く場合。

例→ちぢれる つづく つづみ

②「血」や「月」などの意味があるとき。

例→はなぢ（鼻血） みかづき（三日月）

◎「おお」と「おう」

歴史的に決まっているので、そのまま覚える。

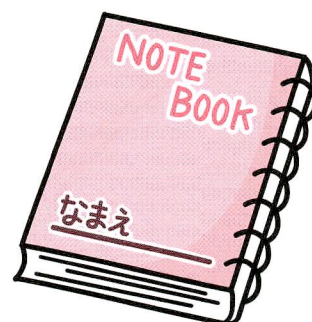
例→こおり ほお とおり とおい
おおきい おおい おおかみ

15

イ ア
このマンガは、ぜんぜんおもしろい。

14

イ ア
今度の算数のテストは、百点の人が多い。



3

文や語句をつなぐことば（接続語）
を学ぶ問題

答えは、
別さつ1ページ

次の文の——の部分^{ぶぶん}は、どちらも二つの文をつないで
います。正しいほうの記号^{きごう}を、○で囲^{かこ}みましょう。

「つなぎことば」
は、21ページと
33ページの「覚^{おぼ}
えよう！」で説^{せつ}
明^{めい}しているよ。
先に読んでね。

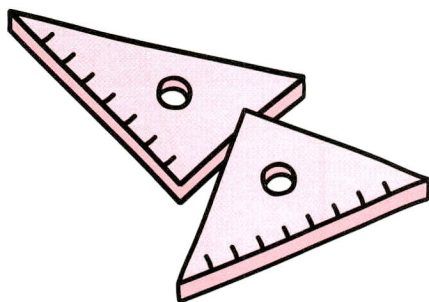


1

ア 今日^{けふ}は朝^{あさ}から大雨^{おおあめ}です。だから、外^{そと}で遊^{あそ}べません。
イ 今日^{けふ}は朝^{あさ}から大雨^{おおあめ}です。しかし、外^{そと}で遊^{あそ}べません。

2

ア 初^{はじ}めにパン屋^やさんへ行^いきました。それから、魚屋^やさんへも行^いきました。
イ 初^{はじ}めにパン屋^やさんへ行^いきました。それでも、魚屋^やさんへも行^いきました。



おうちの方への アドバイス



接続語の意味を理解し、
使いこなせるようにする

接続語の勉強です。接続語は、文と文を結
び、その関係を明確にする役割を果たしま
す。逆に言いますと、接続語の意味を理解し
ていることが、文章を理解するために絶対に
必要だということになります。高校入試や大
学入試の国語の問題でも、空欄に接続語を入
れる問題がしばしば出題されますが、それほ
ど接続語が大事だということです。

ここでは、接続語の意味を理解し、使いこ
なせるようにする基礎を身につけることを目
ざします。

3

ア ねこはこたつで丸くなる。けれども、寒がりだからだ。
イ ねこはこたつで丸くなる。なぜなら、寒がりだからだ。

4

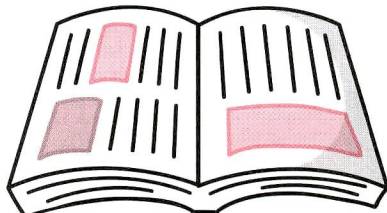
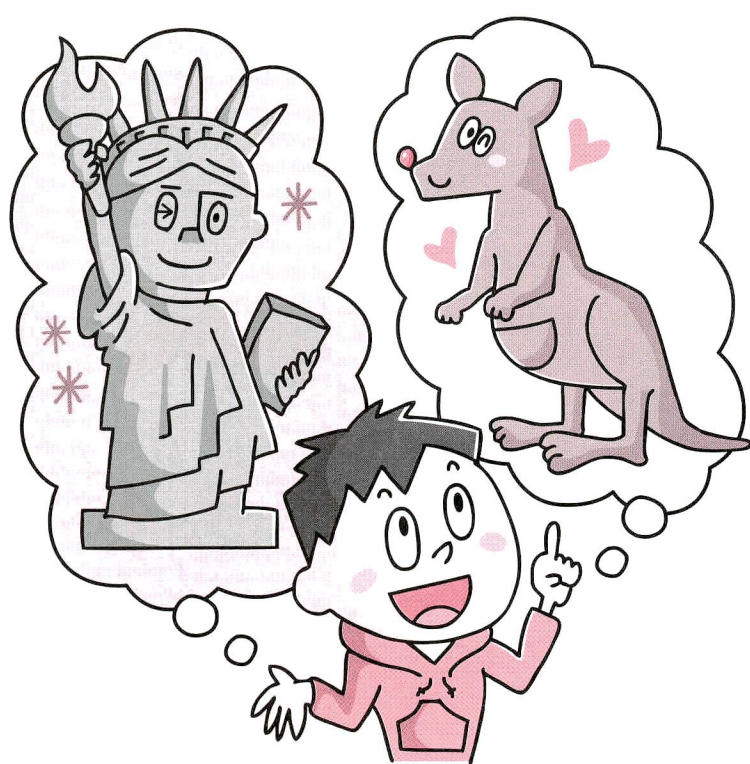
ア ぼくは虫が大好きです。でも、ミミズだけはきらいです。
イ ぼくは虫が大好きです。だから、ミミズだけはきらいです。

5

ア 太郎君は足が長い。だから、走るのがはやい。
イ 太郎君は足が長い。しかし、走るのがはやい。

6

ア アメリカに行きますか。
それなら、オーストラリアに行きますか。
イ アメリカに行きますか。
それとも、オーストラリアに行きますか。



7

ア わたしはよく朝ねぼうをします。

けれども、学校にちこくしたことは、まだ一度もありません。

イ わたしはよく朝ねぼうをします。

だから、学校にちこくしたことは、まだ一度もありません。

8

ア 電車の中でパチンと手をたたいてみた。

すると、周りの人たちに、にらまれた。

イ 電車の中でパチンと手をたたいてみた。

しかし、周りの人たちに、にらまれた。

9

ア お母さんのダイヤの指輪は、にせ物だ。

だから、みんなには本物だと言って、じまんしている。

イ お母さんのダイヤの指輪は、にせ物だ。

でも、みんなには本物だと言って、じまんしている。





覚えよう！

つなぎことば (せつぞく語)について①

ことばとことば、文と文をつなぐ働きをすることばを、**つなぎことば(せつぞく語)**と言います。

つなぎことばは、前のことばや前の文の意味と後のことばや文の意味との関係も表します。

◎前のことがらが、後のことがらの理由になっているもの。

例→頭がいたい。

だから、×外に遊びに行った。

○家でねていた。

◎前のことがらに、後のことがらをつけ加えたりならべたりするもの。

例→頭がいたい。

そのうえ、×体の調子がいい。

○歯もいたくなかった。

◎前のことがらとぎゃくのことばが、後に来るもの。

例→鈴木君と、よくけんかする。

○しかし、仲はよい。

×それで、

10

ア となりの光一君は、算数の時間に、わからないところを教えてください。
それでも、わたしは光一君が好きになりました。
イ となりの光一君は、算数の時間に、わからないところを教えてください。
それで、わたしは光一君が好きになりました。